



9.16アップデート



もくじ

AI関連

- 新たな生成AIモデルをサポート
- Tell Me About My Data

データソース

- Snowflakeのキーペア認証

コンテンツ

- データソースでレポートデータを並べかえ
- パラメーターの引数に参照コード
- クロス集計表の合計欄のラベル
- 積み上げ合計をグラフの先端に表示
- ストーリーからダッシュボードへドリルスルー

その他

- ウェルカム画面をスキップ
- レポート公開時にフォルダー作成
- 共有メールのリンクをURLからコンテンツ名に
- シグナルデータの削除
- Tomcatの自動アップデート

9.16の新機能を一部ご紹介

Webサイトでも
リリースハイライトを公開中



新バージョンリリース情報

あなたのデータの物語を発見しよう：
Yellowfin 9.16 がすべてのユーザーに
AI対応のインサイトを提供

Posted by: Yellowfin Team

Also worth reading:

[Yellowfin 9.16 アップデートウェビナー](#)

[表面的な分析にうんざりしていませんか？](#)

[YellowfinのAIによるインサイトで全体像を把握](#)

[あなたのデータには物語がある：Yellowfin 9.16 がその発見を支援](#)

[あなたのデータの物語を発見しよう：Yellowfin 9.16 がすべてのユーザーにAI対応のインサイトを提供](#)

[バックオフィスDXPO 東京 2025【夏】](#)

新たな生成AIモデルをサポート

OpenAIに加え、新たに3つの生成AIへの接続に対応し、下記の4つの生成AIと連携することができます。

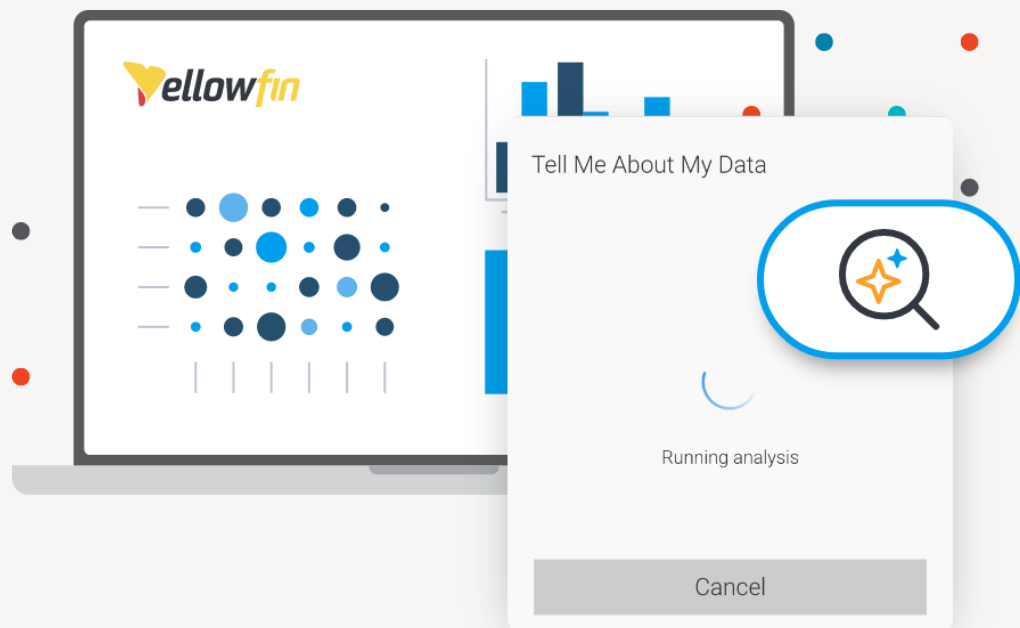
- OpenAI
- Azure **New!!**
- Claude **New!!**
- Gemini **New!!**



それぞれの生成AIモデルの精度・性能・コストについて比較した結果をwikiに掲載していますので、選定する際の参考にいただければと思います。

<https://wiki.yellowfin.co.jp/space/yfcurrent/187596980/>

Tell Me About My Data



AIプラットフォームと連携した、新しいインサイト機能を追加しました。

Tell Me About My Dataは、既存のインサイト機能と非常によく似ており、虫眼鏡アイコンをクリックするだけの簡単な操作で生成AIを活用した分析を行うことができます。

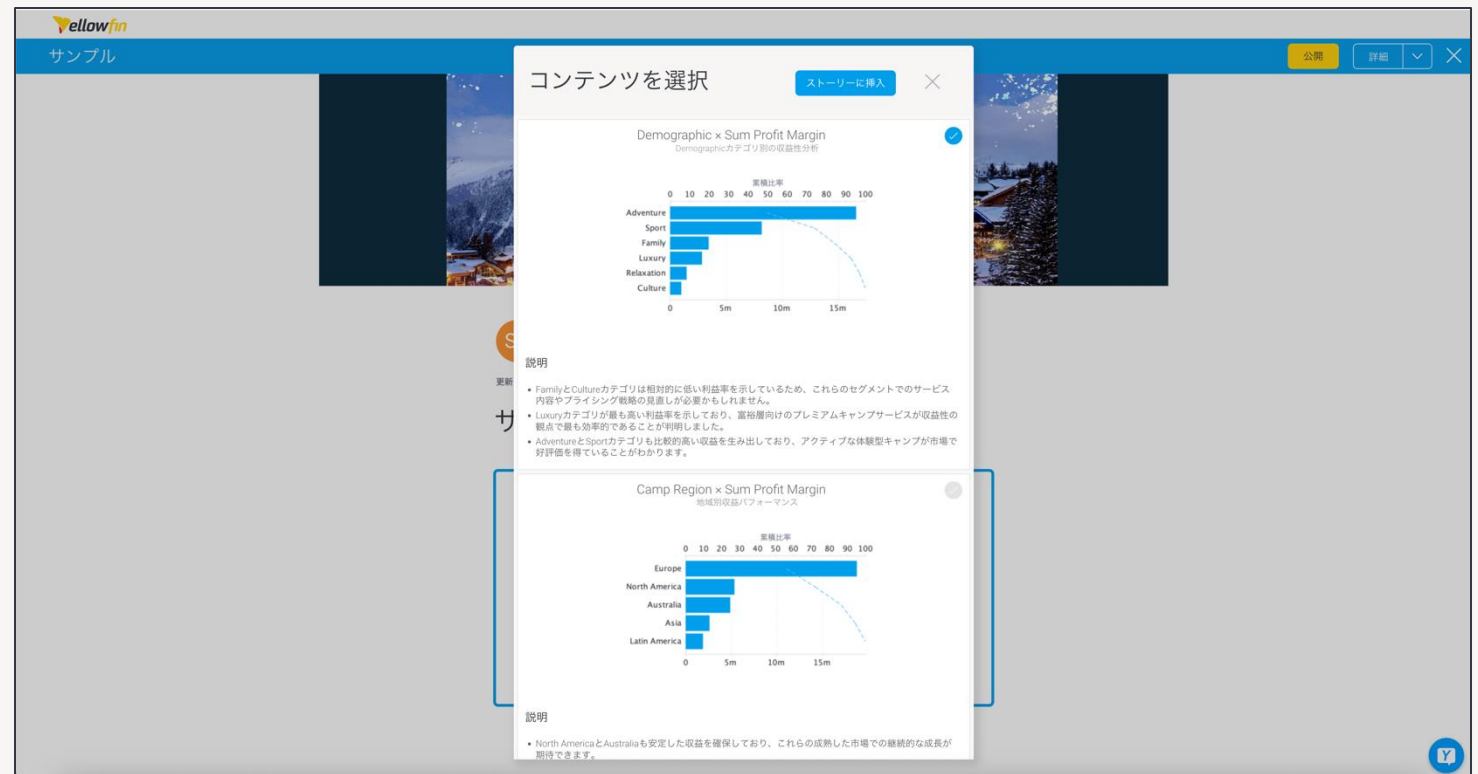
分析を行うために生成AIのプロンプトを記述する必要はありません。

Tell Me About My Data

Tell Me About My Dataは、

- ダッシュボード上のレポート
- 公開済みのレポート
- 作成中のレポート
- 作成中のストーリー

で実行することができます。



Tell Me About My Data

生成AI（LLM）に送信している内容については、外部連携の設定画面に説明があります。

免責事項：この設定を有効にすると、データセットに関する記述統計（平均値、外れ値、その他の統計など）がこのモデルに送信されます。元のデータがLLMに送信されることはありません。

生成AIに送信する内容の一例：

- 実行したレポートの元となるビューのメタデータ
- レポートで使用しているフィールド名とデータ型
- フィールドのサマリー（件数、平均値、中央値、標準偏差など）
- 統計値（相関係数、異常値の数、正規分布、非正規分布など）



新規連携追加

名前

説明 (オプション)

APIのバージョン

モデル名

APIキー

AI NLQで使用する 有効

免責事項：LLMは、列名、ビューの説明、データタイプ、参照コード（オプション：参照コードはビューの自動設定で設定可能）を含むお客様のデータベースのメタデータを使用します。LLMは、いかなる目的においても、お客様の実際のデータを使用することはありません。

Tell Me About My Dataで使用する 有効

免責事項：この設定を有効にすると、データセットに関する記述統計情報（平均値、外れ値、その他の統計など）がこのモデルに送信されます。実際のデータがLLMに送信されることはありません。

保存 テスト接続 キャンセル

Tell Me About My Data

生成AIに送信しているメタデータの例：

name	description	dataType	fieldTypeCode	synonyms	knownValues	pre-aggregated
Date of Birth	Athlete date of birth.	DATE	DIMENSION	0	0	FALSE
Age Group at Camp	The age group an athlete falls into when attending a camp.	TEXT	DIMENSION	0	0	FALSE
Age at Camp	Age of the athlete when they attended the camp.	NUMERIC	MEASURE	0	0	FALSE
Camp Region	Region the camp is located in.	TEXT	DIMENSION	0	0	FALSE
Athlete ID	Athlete identification number.	NUMERIC	DIMENSION	0	0	FALSE
Agency Type	Agency type: online or agency	TEXT	DIMENSION	0	0	FALSE
Invoice Estimate	Estimated invoiced amount (before exchange rates are involved).	NUMERIC	MEASURE	0	0	FALSE
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

※実際は、カンマ区切りのテキストです。読みやすいように加工しています

Tell Me About My Data

データセットには624行と6列が含まれています。

欠損値を除去した後のデータセット： 624行

フィールド名とデータ型:

index	name	type
0	Month	LOCAL_DATE
1	Camp Region	STRING
2	Profit Margin	NUMBER
3	Gender	STRING
4	Demographic	STRING
5	Invoiced Amount	NUMBER

数値列のユニーク値:

528

数値カラムの要約:

Column: Profit Margin

Measure	Value
n	624.0
sum	1.6260352799962386E7
Mean	26058.257692247433
Min	-1172.5401
Max	467796.680543
Range	468969.220643
Variance	1.9866531698302767E9
Std. Dev	44571.88766285624

※実際は、カンマ区切りのテキストです。読みやすいように加工、一部を和訳しています

Tell Me About My Data

文字列カラムの要約:

Column: Camp Region

Category	Count
Australia	115.0
North America	134.0
Asia	98.0
Europe	247.0
Latin America	30.0

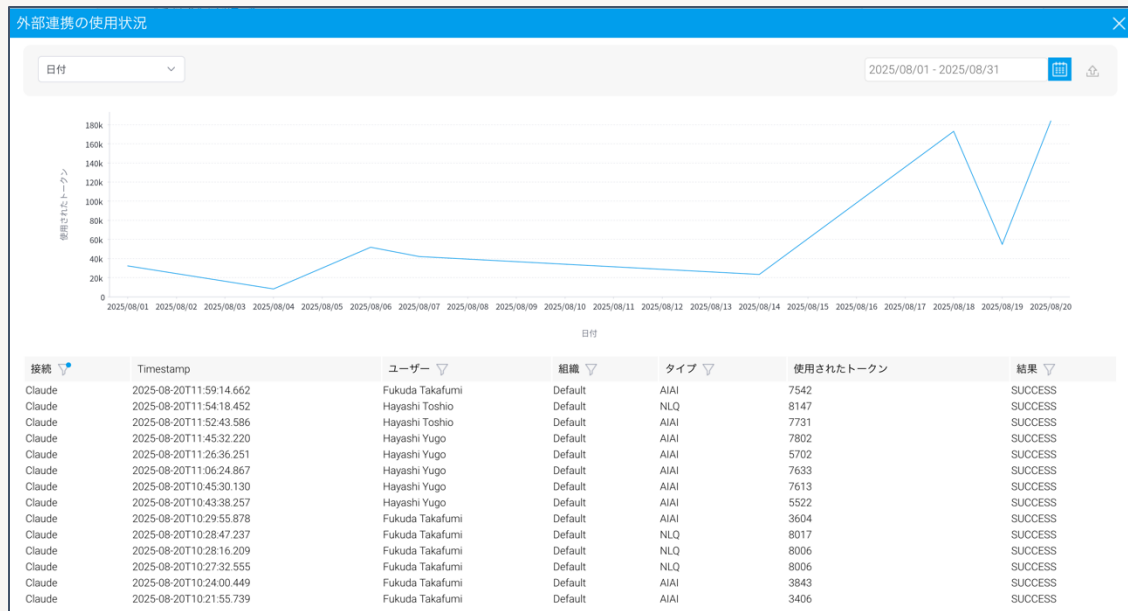
Column: Demographic

Category	Count
Adventure	136.0
Sport	120.0
Culture	72.0
Luxury	67.0
Family	133.0
Relaxation	96.0

※実際は、カンマ区切りのテキストです。読みやすいように加工、一部を和訳しています

Tell Me About My Data

管理コンソールでは、トークンの使用量や生成AIに投げているプロンプト、生成AIからのレスポンスを確認することが可能です。



外部連携のリクエスト詳細

日付: 2025-08-19T10:56:37.019
 ユーザー: Asakawa Yuu
 組織: Default

タイプ: AIAI
 使用されたトークン: 7884
 結果: SUCCESS

プロンプト全体

```
{
  "model": "claude-sonnet-4-0",
  "max_tokens": 10000,
  "messages": [
    {
      "content": "The dataset contains 3849 rows and 12 columns.\n\nDataset after missing values removal: 3849 rows\n\n# Field names and types:\n\nindex,name,type\n0,キャンペーン,STRING\n1,..."
    }
  ],
  "system": "You are a business analyst. Given the following summary data about a dataset, generate a clear and insightful analysis. Focus on identifying key trends, outliers, and significant..."
  "tools": [
    {
      "name": "json_schema"
    }
  ]
}
```

レスポンス全体

```
{
  "id": "msg_015E4WcvqV7xLSxW4PioInGh",
  "type": "message",
  "role": "assistant",
  "model": "claude-sonnet-4-20250514",
  "content": [
    {
      "type": "tool_use",
      "id": "toolu_018NrRplAvxUnUb9ahg8FoWV",
      "name": "json_schema",
      "input": {
        "title": "スキーマー事業の収益性分析レポート",
        "description": "..."
      }
    }
  ]
}
```

Snowflakeのキーペア認証

Snowflakeのキーペア認証に対応しました。

Snowflakeへの接続に、秘密鍵を使用して接続することができるようになりました。

パスワード認証によるSnowflakeへの接続は、2025年11月に廃止されると発表されています。

The screenshot shows a Snowflake blog article. The title is "Snowflake、2025年11月までに単一要素パスワード認証をブロック". The article is dated December 2, 2024. The author is Brad Jones. The article discusses the transition from password authentication to key pair authentication by November 2025. It includes a list of user types affected by this change: Account, User, Human User, and Service User.

注：このブログ記事は2025年4月に、段階的なアプローチのステージについて更新されています。

今年の初め、Snowflakeはサイバーセキュリティおよびインフラセキュリティ（CISA）のセキュアバイデザイン原則に署名しました。このコミットメントの一環として、Snowflakeは2025年11月にパスワードによる単一要素認証のサインインをブロックすることを発表しました。

この保護レベルの強化により、Snowflake Horizon Catalogのセキュリティ機能が強化され、セキュリティ管理者と情報セキュリティ責任者がセキュリティ懸念をより適切に保護し、認証情報が盗難されるリスクを軽減できるようになります。これはまた、2024年10月以降に作成される新しいSnowflakeアカウントでは、多要素認証（MFA）がすべてのパスワードサインインのデフォルトになるという前回の発表に続くものでもあります。

このマイルストーンに到達し、すべてのお客様が移行できる道筋を確実に構築するために、私たちは段階的なアプローチを採用しています。各フェーズについて詳しく説明する前に、いくつかの分類を整理しておきます。

- **アカウント**：これは、テーブル、ビュー、データベース、スキーマ、ユーザーアカウントなどのさまざまなオブジェクトを格納するコンテナを指します。詳細については[こちら](#)を参照してください。
- **ユーザー**：これは、お客様のアカウントとその中のオブジェクトにアクセスできる人のIDを示すオブジェクトを指します。詳細については[こちら](#)を参照してください。
- **人間のユーザー**：これは、人間であり、通常はインタラクティブなログインを使用してSnowflakeにサインインするユーザーを指します。このようなユーザーは、SnowflakeユーザーオブジェクトでTYPE = PERSONまたはNULL（デフォルトはNULL）で宣言されます。詳細については[こちら](#)を参照してください。
- **サービスユーザー**：これは、インタラクティブログインなしでのプログラムアクセスに使用されるユーザーを指します。このようなユーザーは、SnowflakeユーザーオブジェクトでTYPE = SERVICEまたはLEGACY_SERVICEで宣言さ

<https://www.snowflake.com/ja/blog/blocking-single-factor-password-authentication/>

データソースでレポートデータを並べかえ

データソースレベルでデータを並べかえることができるようになりました。

データソースでの並べかえ設定を有効にすると、レポートのSQLにORDER BYが追加されます。

最大行数の制限にかかる場合も、データソースで並べかえた結果を元にデータを切り捨てます。

SQLステートメント

マスタークエリー

```
SELECT DISTINCT
  "ATHLETEFACT"."INVOICEDDATE" AS C1,
  "ATHLETEFACT"."BOOKINGMETHOD" AS C2,
  "ATHLETEFACT"."AGEGROUPATCAMP" AS C3,
  SUM("ATHLETEFACT"."INVOICEDAMOUNT")
FROM "ATHLETEFACT"
GROUP BY
  "ATHLETEFACT"."AGEGROUPATCAMP",
  "ATHLETEFACT"."BOOKINGMETHOD",
  "ATHLETEFACT"."INVOICEDDATE"
ORDER BY 1, 3, 4
```

パラメーターの引数に参照コード

パラメーターの引数に、参照コードを指定できるようになりました。

引数をドロップダウンから選択できるようになるため、手入力による入力ミスを防ぐことができるようになります。



フィルター	フィルターの書式
一般設定	表示
フィルターの表示とアクション	入力スタイル
フィルター	値の入力方法
Parameter 3	参照コード
	デフォルト値

フィルターの書式

表示

入力スタイル

値の入力方法

あらかじめ定義された一覧から、フィルターの値を選択します。

手入力

ドロップダウン

参照コード

このドロップダウンに使用する参照コードを選択してください。

Booking Method

編集 新規作成

デフォルト値

レポートが最初に読み込まれるときに選択されている値を選択します。

--ビューのデフォルト--

クロス集計表の合計欄のラベル

クロス集計表のカラム合計、ロウ合計のラベルを設定できるようになりました。

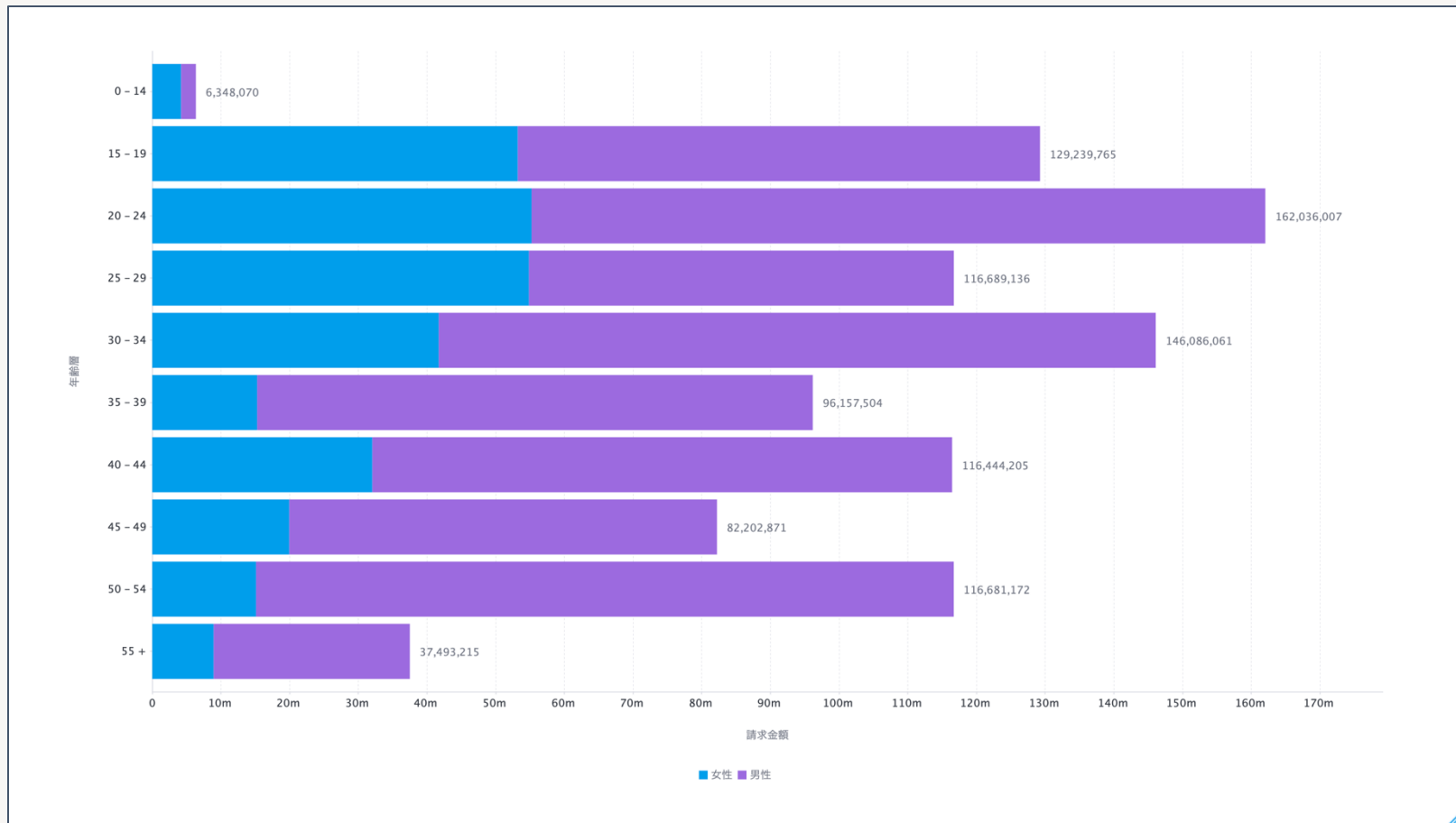
デフォルトのラベルの他、合計の集約（合計、平均、個数など）、カスタムテキストを入力することが可能です。

請求金額	地域(代理店)				
年齢層	アジア	オーストラリア	ヨーロッパ	北アメリカ	合計
0 - 14	6,109,120	137,484	38,224	63,242	1,587,017
15 - 19	119,263,621	2,965,035	3,264,762	3,746,347	32,309,941
20 - 24	149,109,614	3,689,821	3,952,561	5,284,011	40,509,002
25 - 29	108,398,483	2,523,300	1,590,200	4,194,167	29,176,537
30 - 34	139,771,333	1,436,873	1,681,588	3,196,267	36,521,515
35 - 39	81,859,192	3,356,167	3,198,553	7,743,593	24,039,376
40 - 44	108,826,644	2,141,881	1,970,128	3,505,552	29,111,051
45 - 49	76,285,226	1,667,424	1,343,805	2,906,417	20,550,718
50 - 54	111,716,234	1,693,370	1,312,759	1,958,809	29,170,293
55 +	35,699,725	505,335	537,117	751,037	9,373,304

請求金額	地域(代理店)				
年齢層	アジア	オーストラリア	ヨーロッパ	北アメリカ	平均
0 - 14	6,109,120	137,484	38,224	63,242	1,587,017
15 - 19	119,263,621	2,965,035	3,264,762	3,746,347	32,309,941
20 - 24	149,109,614	3,689,821	3,952,561	5,284,011	40,509,002
25 - 29	108,398,483	2,523,300	1,590,200	4,194,167	29,176,537
30 - 34	139,771,333	1,436,873	1,681,588	3,196,267	36,521,515
35 - 39	81,859,192	3,356,167	3,198,553	7,743,593	24,039,376
40 - 44	108,826,644	2,141,881	1,970,128	3,505,552	29,111,051
45 - 49	76,285,226	1,667,424	1,343,805	2,906,417	20,550,718
50 - 54	111,716,234	1,693,370	1,312,759	1,958,809	29,170,293
55 +	35,699,725	505,335	537,117	751,037	9,373,304

積み上げ合計をグラフの先端に表示

積み上げ横棒グラフの積み上げ合計を棒グラフの先端に表示する設定が追加されました。



ストーリーからダッシュボードへドリルスルー

ストーリーに挿入されたレポートに、ダッシュボードへのドリルスルーが設定されている場合に、ダッシュボードへドリルスルーすることができるようになりました。

ダッシュボードへのドリルスルー

☆ 共有 詳細

AS Administrator System 0 この記事を読んだ人 AS

公開: 2025-08-13

ダッシュボードへのドリルスルー

年齢層	請求金額
0 - 14	10,000,000
15 - 19	15,000,000
20 - 24	162,036,007
25 - 29	120,000,000
30 - 34	130,000,000
35 - 39	110,000,000
40 - 44	120,000,000
45 - 49	100,000,000
50 - 54	120,000,000
55 +	80,000,000

20 - 24 ×

Sum 請求金額 162,036,007

ドリルスルー先: キャンペーン分析

ウェルカム画面をスキップ


初回ログインの際に表示されるウェルカム画面を表示しないようにできるようになりました。

ユーザーにプロフィール情報をカスタマイズさせたく無い場合に有効です。



ようこそ Asakawa Yuu さん

私達はあなたのプロフィールを準備するために、いくつかの情報を必要とします

 Asakawa
Yuu
yuu.asakawa@yellowfinbi.com

パスワードを変更してください

現在のパスワード
新しいパスワード
新しいパスワードを再入力

あなたのプロフィール

職位
自己紹介を書く

興味・関心
+ タグ追加

個人設定を保存 >

レポート公開時にフォルダー作成

レポートを保存(公開)する際に、コンテンツフォルダーを作成できるようになりました。

レポートを完成させ、保存するタイミングでフォルダーを作成し忘れていたとしても管理コンソールや閲覧画面に移動することなく、フォルダーを作成してレポートを保存することができます。



レポート保存

詳細 配信 レポート設定 更新

売上集計

性別、顧客タイプによる比較と時系列推移を表示

-- 選択 -- -- 選択 -- +

+ タグ追加

レポートアクセス

フォルダーへのアクセス権を持つすべてのユーザーがこのレポートを表示することができます。

公開 非公開

保存

共有メールのリンクをURLからコンテンツ名に

レポートやダッシュボードなどのコンテンツをメールで共有する際に、これまではメール本文にURLが記載されていましたが、コンテンツ名のテキストリンクを記載するように変更しました。



シグナルデータの削除

シグナルの結果をリポジトリデータベースから削除できるようにしました。

これまで、シグナルの検出結果は複数のシグナルで相互に参照しあうなどしていたため、削除してもリポジトリデータベースに検出結果を保持しておく仕組みでしたが、日々リポジトリに蓄積されていくシグナルの検出結果の肥大化を解消するために、削除できる機能を追加しました。

下記の操作でシグナルの検出結果をリポジトリから削除することができます。

- シグナル管理画面から「解析をクリア」
- シグナル管理画面からシグナルを「削除」
- シグナルモニターから削除
- ビューを削除

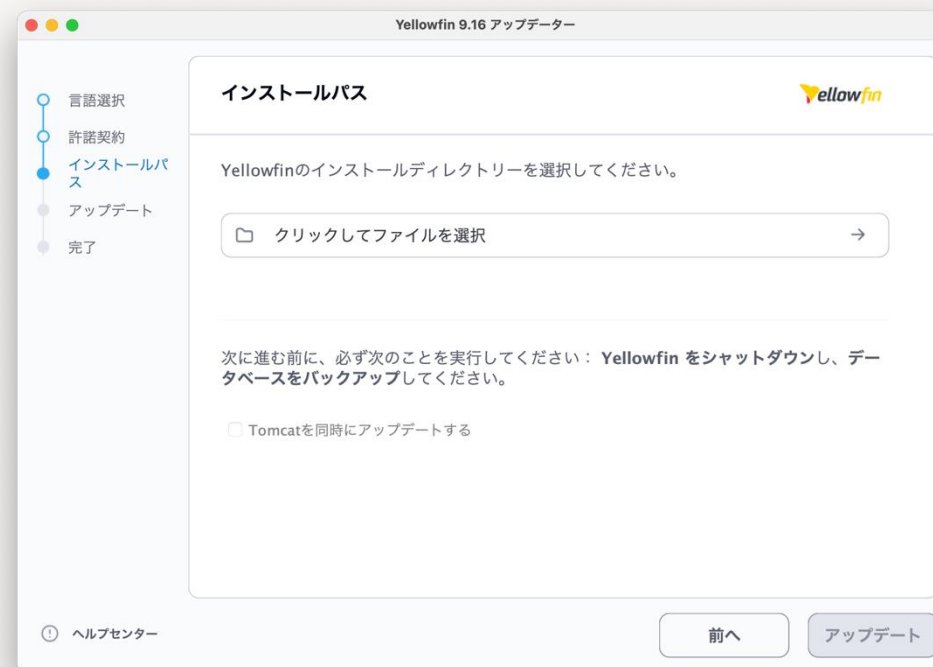
Tomcatの自動アップデート

Yellowfinをアップデートする際に、Tomcatも同時にアップデートできるオプションを追加しました。

このオプションを有効にしてアップデートを実行すると、TomcatをYellowfinにバンドルされているバージョンにアップデートします。

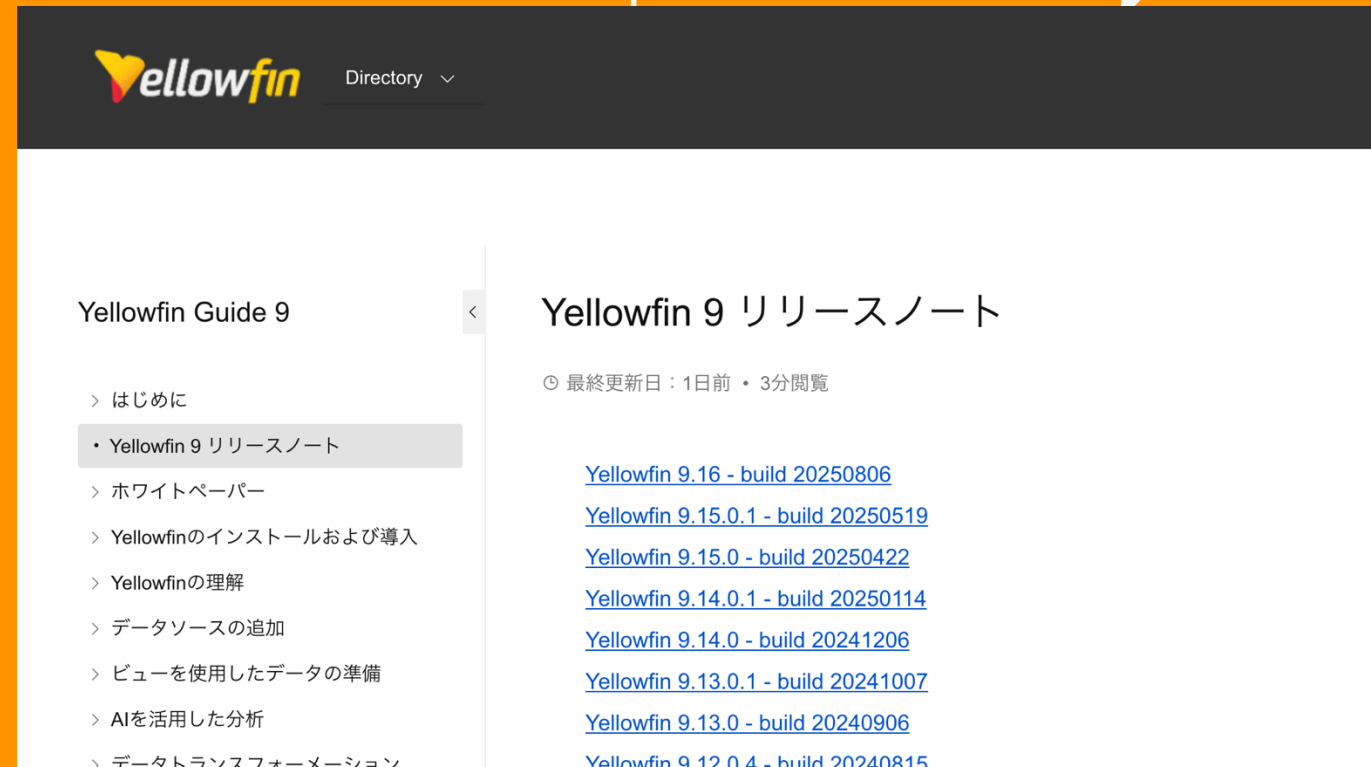
例えば、9.16のアップデートキットを使用した場合、Yellowfinを9.16にバージョンアップすると共に、Tomcatを9.0.106にアップデートすることができます。

制限事項：コンテキストパスを設定している環境の場合、Tomcatの自動アップデートはできません。従来の方でアップデートをおこなってください。



新機能の詳細について

すべての機能強化の詳細は、
リリースノートをご確認ください



The screenshot shows the Yellowfin 9 Release Notes page. The header includes the Yellowfin logo and a 'Directory' dropdown menu. The main content area is divided into two columns. The left column, titled 'Yellowfin Guide 9', contains a list of navigation links: 'はじめに', 'Yellowfin 9 リリースノート' (highlighted), 'ホワイトペーパー', 'Yellowfinのインストールおよび導入', 'Yellowfinの理解', 'データソースの追加', 'ビューを使用したデータの準備', 'AIを活用した分析', and 'データトランスフォーメーション'. The right column, titled 'Yellowfin 9 リリースノート', displays the release notes for version 9, with a sub-header '◎ 最終更新日：1日前 • 3分閲覧'. Below this, a list of release notes is shown, including 'Yellowfin 9.16 - build 20250806', 'Yellowfin 9.15.0.1 - build 20250519', 'Yellowfin 9.15.0 - build 20250422', 'Yellowfin 9.14.0.1 - build 20250114', 'Yellowfin 9.14.0 - build 20241206', 'Yellowfin 9.13.0.1 - build 20241007', 'Yellowfin 9.13.0 - build 20240906', and 'Yellowfin 9.12.0.4 - build 20240815'.

 *Yellowfin*

